表2 救急外来で突然死に遭遇した家族の体験

カテゴリー	サブカテゴリー	コード番号	コード
1.突然で衝撃的な出来事に対する反応	考えることも感じることもできない	A-17	知人に会っても気づかない程、まわりが見えなくなる
		B-8	待っている間は何も考えることができない
		C-6	こうなったことに驚くばかり、生きるとか亡くなるとか考えない
		D-1	何も考えることが出来なくて、「どうしよう」という言葉で頭がいっぱい
		D-5	「これから、どうしよう」ということで一杯で、看護師の質問に答えられない
		D-10	（臨終を告げられても）何をどうしたらいいのか、分からなくて、悲しいと感じる余裕がない
		F-1	救急車の呼び方も分からなくなる程、動転する
		F-6	（医師から）助けられなかったと言われ、茫然として涙もでない
	何も言えず動けず言われるままになる	A-6	（医師の）話しが分からなくても、どう言えばよいか分からないので同意するしかない
		B-12	（医師に）聞きたいことがあったけど、ショックで聞けない
		D-6	看護師に言われたことが分からなくても、はいとしか言えない
		D-7	どうしていいか分からず、何もできない
	目の前の現実と自己の乖離	A-3	自分の事を高い所から違う人が見ている感じ
		A-5	医師にお亡くなりになりましたと言われ、自分の事とは思えず、ドラマを見ている感じがする
		C-13	医師の臨終を告げる声は聞こえていたが、頭に入ってこない
		D-8	臨終を告げられた時）そこに寝ているのは確かに父さんなんだけど、違う人のように思えた。
2.受け入れ難い死	患者の死は全く予期しなかった	B-3	誰も（じいちゃんが）死ぬなんて思っていなかった
		C-1	高齢だったが、死が近いとは全然思っていなかった
		C-2	（蘇生処置を見ていたが、）心臓が止まっている、亡くなっているという認識は無かった
		F-4	待合室で待っている時、死ぬなんて全然考えなかった
	死んだとは思えない	B-9	突然、死んだと言われ、納得できない
		B-18	簡単に死なれると死んだと思えない
		E-15	高齢だったが、元気だったのですぐに納得できない
		C-3	体が冷たければ（死を）感じたかもしれないが、（母は）そうじゃなかった
		C-14	（臨終を告げられた）母の顔は眠っているようで、死んだとういう実感は無く、半信半疑
		C-12	医師(の死亡確認)を見て、(死亡宣告を)聞き、（死因の）説明を受けても、嘘と思いピンとこない
		C-19	（霊安室に）行くまでは亡くなったと言われても半信半疑だった
		D-9	手や顔に触ると冷たくなっていたが、（死んだという）実感が無かった
	看病が出来なかった無念	B-1	何日か手を掛けてから逝くんだったら納得できるが、ビックリするばかりで納得できない
		F-8	せめて、3日でも1週間でも付き添いたかった
	患者の死が納得できず感情があふれ出る	B-2	先生が殺したと孫に泣かれる
		B-4	え一っ、なんで。こんな、逝くなんて信じられないと娘や息子が大声を出す
		B-19	家族みんなの気が立っていて、職員に食って掛かる

表2 救急外来で突然死に遭遇した家族の体験

カテゴリー	サブカテゴリー	コード番号	コード
3. 生命の危機を感じる	緊迫した救急外来の状況から患者の生命の危機を感じる	A-1	救急外来の準備を見て、父が大変なことになっていると感じる
		A-2	救急隊員が（心臓マッサージを）しているのを見て、大変なことだと感じる
		A-16	処置室に入った時、天井から色んなものがぶら下がっていて、普通じゃないと思う
		E-4	救急隊が心臓マッサージを始めたので、ダメなのかと思う
	助かって欲しいと必死に祈る	C-7	（処置中、待合室では）手当をしてもらいたい、どうにかしてほしいという気持ちで待つ
		F-3	父さんはどうなんだろう、なんとか助かって欲しいという一念でいた
	医療者からの情報を待つ	C-5	（処置室の）中に入って全て見たいと思ったが、お任せするのがベストだと思う
		E-5	（処置室を出入りする）おばあちゃんのそばに行きたいけど、行けない。
		E-7	おばあちゃんのそばに行きたいけど行けない。中に入れないので中でなにをしているのか気になった
4. 蘇生処置に対する複雑な思い	蘇生処置を受ける患者を辛そうと感じたが、処置の中止は考えない	C-8	心臓マッサージを受けている母が辛そうだと思ったけど、止めて欲しいと思わない
	蘇生処置を見て衝撃を受ける	C-9	心臓マッサージを見た時は、普段目にしないものなので、ショックだった
	蘇生処置の終了で患者が楽になったと感じる	C-10	心臓マッサージをやめた時、（母が）楽になったと思いホッとする
		C-11	（心臓マッサージを止めた時）見てはいけない辛い場面が終わったと感じた
	恐ろしくて蘇生処置を見られない	F-2	(蘇生)処置を見ることが恐ろしくて、見えないところに行く
5. 後悔と自責の念	後悔と自責の念が込み上げる	C-15	一人になると（今までの出来事が）理解できてきて、自分の中から後悔という感情が一気に込み上げてきた
		D-2	もう少し早く気が付いていたら（助かったかも）、どうして（夜中に）顔を見なかったのかと自分を責める
		D-3	胸が苦しくなる回数が増えていることは知っていたのに、どうして病院に行くように強く言わなかったのかと思う
		E-11	私のせいで主人と娘が（臨終に）間に合わず、悪いと思う
		E-14	私が早く救急車を呼んでいたら違ったかもと思う
6. 死を受け入れる努力	家族で状況を話し合う	A-15	母と妹よりもうダメだと思うと聞かされ、（父の死を）覚悟する
		E-12	主人と娘は急だったし年だったから（臨終に間に合わなくても）仕方がないと言ってくれた
	死を受け入れるための必死の努力	C-18	（霊安室で）待っていて下さいと言われた時、無理やりにでも、自分で（母が）亡くなったことを納得しなきゃと思った
		F-9	気が付いた時はすでに死んでいたから病院で処置をしても助からないと自分に言い聞かせ、気持ちを納めるしかない

表2 救急外来で突然死に遭遇した家族の体験

カテゴリー	サブカテゴリー	コード番号	コード
	徐々に死の現実感を得る	C-20	霊安室に来た時に現実なんだと思った
		E-10	霊安室で顔や手を撫でると冷たくて、返事もしないので、本当にダメなんだと思う
	遺体の表情から安らかな死を感じる	A-14	遺体の顔が寝ているようだったので、苦しまずに逝ったとホッとする
7．抑圧される悲嘆感情	自分の役割を果たそうとする	A-10	自分がしっかりしなくてはと思い、帰宅の段取り、親戚への連絡を行う
		A-11	母の体調を心配する
		B-10	納得しない息子に、父さんはそうなった（死んだ）んだよ、と言ってきかせる。
		B-11	私も悔しかったが（子どもたちの様子を見て）言葉に出来なかった
		B-20	娘が半狂乱になって泣き叫ぶのを見て、私がしっかりしなくちゃと思う
		C-17	葬式の段取りなどをしなければならないという思う
	落ち着ける空間がない	B-17	霊安室で家族だけになるとやっと落ち着く
8．患者と引き離される	状況が理解できないまま、患者と引き離される	B-6	（救急車から降りた時）看護師に廊下に居てくださいね、とだけ言われた
		C-4	母が処置室に入る時、離れたくないと思ったが、離れて待つのは仕方ないと思った
		D-4	救急車から降りた時は、言われたとおりにするのが精一杯で、お父さんに付いて治療室に入るなんて、思いもしない
		E-2	救急隊に（待合室で）待つように言われたが、おばあちゃんに何をするのか、なぜなのか分からなかった
	患者と離れ不安を感じる	A-4	（処置室の）外に出され、これから（父と私たちは）どうなるのかと思った
		E-1	心配でおばちゃんのそばにいたかった
9．医療者への不満	医療者の態度や処置が納得できない	B-7	あまり長く待たずに処置室に入って下さいと言われ、えっ、こんなに簡単にと思う
		B-13	医師に納得いかなかったら解剖しますかと言われ、今まで違う病院にかかっていたから、こういうことを言うのかなあと思った
		B-16	こんなに簡単に扱われて。よその病院(に通院していたから）だからかなあ、と思う
	医療者の関わりが少なく放置される	A-9	（検死の間、医療者の）説明（関わり）が無く、終わる目途も分からずに、霊安室で長時間待った
		A-19	看護師から霊安室の電話に死亡診断書が出来たと連絡があって、忙しくて来れないんだと思った
		C-21	霊安室で孤独感を感じ、子供たちへのメールで気を紛らわす
		C-23	なにもない、薄暗い場所（霊安室）に一人でいることが辛い
		C-24	母がいつ検死から戻るのか解らないので、一人では（霊安室から）出ることも出来なかった
		E-3	おばあちゃんに何をするのか（医師や看護師から）話は無かったが、処置がすむまで待てということだと思った
		F-5	（待合室には）他にも患者がいて、お父さん一人に関わっていられないのだと思う
		F-11	他にも患者がいて、（看護師は）忙しそうで、私たち（家族）に関わっていられないと思う

表2 救急外来で突然死に遭遇した家族の体験

カテゴリー	サブカテゴリー	コード番号	コード
	看護師は事務的なことでしか関わってこない	A-18	看護師は事務的なことしか言ってくれなかった
	医療者や警察官は家族の気持ちを理解していない	B-23	（警察官も医師も）上から目線で見て、家族の気持ちを分かってくれない
		B-24	（医師や看護師は）患者や家族の気持ちを分かって、その人に合った対応をして欲しい
	遺品が雑に扱われる	E-17	着ていた服がビニール袋にドンと（まとめて）、戻ってきたので驚いた
10. 医療者から安心を得る	医療者の言葉に慰められる	A-13	（医師より）ご遺体の方も別に虐待を疑うようなものはないと言われ、当たり前だと思い、気持ちが晴れる
		C-16	あなたは十分に（介護）したと、看護師に言われ救われた
		C-25	看護師の「十分にしたから、後悔することはない」という言葉が無かったら、後悔で病気になっていたかも、看護師の存在は大事だと思った
		E-16	医師より「大往生でしたよ。」と言われたことが救いだった
		F-7	（医師より）もっと早く（病院に）来たとしても、助けるのは難しかったと言われ、仕方がないと思えた
	処置をする医療者を見て、誠意を感じる	E-6	（おばあちゃんの）周りに医師や看護師が沢山いるのをみて、一生懸命してくれていると思った
11. 検死に対する抵抗感	検死に対して抵抗感を持ちながら同意する	A-7	（お風呂で死んだ場合は）警察が入っても仕方ないと思った
		A-8	（救急外来では）死後の検査や検死を受けるのが普通だと考えて、受け入れるしかなった
		B-22	なぜ、警察が来るのか、納得できない
		D-11	警察が調べると言われて、すごく嫌な感じがした
		D-12	どうして警察が調べるのか、分からなかったし、やめて欲しかったが、何も言えなかった こういうものだと思うしかなかった
		F-10	看護師より警察が入ることを聞き、そうなんだと思った
	検死に伴う警察官の行為に傷つく	A-12	警察官の遺体の写真を撮る、同じことを何度も尋ねる行為が不愉快で腹が立ったがそういうものだと思うようにした
		B-21	警察は人が悲しんでいる時に話を聞いてきて、ひどいと思った
		E-9	警察に現場検証でいろいろ聞かれ、写真を撮られて、辛かった